

# 上越市市民の声アンケート

## 報告書

平成18年 2月

上越市

# 目次

## 序編 調査の全体概要

1. 調査目的	1
2. 調査方法	2
3. 回収結果	2
4. 注意事項	3

## 調査の結果概要

## 本編 調査の結果

1. 回答者の属性	9
2. 現在の生活や暮らしについて	11
2-1 地域への愛着	11
2-2 暮らしやすさ	13
2-3 暮らしやすさの変化	15
2-4 暮らしやすさへの期待	17
2-5 暮らしやすさを感じるどころ	19
2-6 不便や不満を感じるどころ	22
3. 現在の生活実態・生活実感について	26
4. 各分野における取組について	30
4-1 設問及び回答方法	30
4-2 全体の満足度	31
4-3 分野・取組別の満足度	35
4-4 全体の重要度	101
4-5 満足度と重要度の比較	103
5. 市民活動や地域活動に対する参加の意向について	111
5-1 ボランティア活動・市民活動への参加	111
5-2 地域活動への参加	115
5-3 今後参加してみたい活動	117
6. 市政運営のあり方について	119
6-1 これからの行政サービスや公共施設の管理の在り方	119
6-2 市民の声の反映方策	121
7. 今後の土地利用のあり方について	123
8. 将来のあるべき姿について	133
9. 自由意見のとりまとめ	135
10. 市民の声アンケートから見える上越市の政策課題	146

付属資料

序 編

調査の全体概要

# 1. 調査目的

## (1) 調査の背景

少子高齢化の進展を始めとした社会経済状況の変化、またそれに伴う住民の生活様式や価値観の変化は、ここ数年間に大きなものとなっており、それに合わせて、地域住民の行政に対する施策ニーズは多様化・個別化している。一方で、地方自治体の財政状況は年々厳しさを増しており、今後の地方分権の動きとあいまって、地方自治体には、地域住民のニーズを適切に把握し、限られた財源を有効に活用し、住民の満足度を高めるより効率的・効果的な行財政運営が求められている。

上越市では「上越市第5次総合計画」を平成16年4月からスタートしているが、平成17年1月1日の市町村合併により人口や市域などの基本的な枠組みが変わったことから、「上越市第5次総合計画」を、新市域を含めた新生上越市における市政運営の最上位計画として改定しているところである。上越市の掲げる「市民本位のまちづくり」の基本方針となるこの総合計画の改定にあたっては、住民のニーズの把握がその出発点であり、現在開催している公募委員による市民会議とともに、多様な市民参加手法を取り入れる必要がある。

また、同時に上越市では平成15年度から全事務事業を対象として事務事業評価に取組み、また、平成18年度予算編成から部局ごとに上限額を定めて、部局長の責任と権限で編成する枠配予算方式を導入するなど、成果重視の行政運営を目指した取組を進めている。こうした市の施策、事業の成果についても、市民生活における実感や満足度など市民生活の視点に立った考え方が必要である。

## (2) 調査の目的

この調査は、以上の背景を踏まえ、住民のニーズを把握し、上越市第5次総合計画の改定に資する基礎資料を得ることを目的に実施した。また、市民生活における実感や満足度についても把握し、行政評価や予算編成に資する基礎資料とすることも目的とした。

## (3) 調査の方針

この調査は、上記の目的にあわせ、次の5点に重点を置いて実施した。

### ①合併による影響と地域別ニーズの把握

合併による影響と新たに上越市に加わった旧13町村などの各地域における行政需要などについても的確に把握する。

### ②行政需要・今後の重要課題の抽出

各分野の行政施策に対する市民の満足度や重要度の測定を通じて、現時点における行政需要、今後の重要課題の抽出を行う。こうした結果を総合計画の改定に反映していくとともに、行政評価、予算等への間接的な反映も行う。

### ③行政評価に資する「成果指標」の収集

総合計画において定めた長期的な政策や施策を着実に実施し、常によりよい方向に見直しを行っていくためには、行政評価と連動した総合計画が必要である。総合計画における政策目標の達成度などを総合的に評価するために必要な「成果指標」について、本調査において、評価の基準となる現状値を把握する。

#### ④経年変化の把握と継続的な活用

3年前に実施した「平成14年住民満足度調査」の結果との比較を通して、市民の意識や行政需要の変化を把握するとともに、変化の要因を探ることで、今後の推測にも役立てる。

また、本アンケートは、今後2年に1度継続的に実施することを想定し、市民意識の経年変化の把握、総合計画の進行管理、行政評価における成果指標としての活用を目指す。

#### ⑤建設的な「市民の声」の収集と市政への反映

アンケートにおける自由意見欄には、生活実感に基づく市民の率直な声が表示されている。上越市の将来の展望に目を向けた建設的な「市民の声」を収集し、各課にもフィードバックすることでより身近な市政への反映を目指す。

## 2. 調査方法

### (1) 調査地域

上越市内全域（合併前の上越市と旧13町村）

### (2) 調査対象

上越市内に在住する満20歳以上の男女5,000人

### (3) 抽出方法

住民基本台帳より年齢階層別に抽出率が等しくなるよう無作為抽出

### (4) 調査方法

郵送配布・郵送回収

### (5) 調査期間

発送・・・平成17年 8月19日

回収・・・平成17年 8月20日～8月29日

### (6) 調査機関

パシフィックコンサルタンツ株式会社

### (7) 調査票

本報告書の巻末（付属資料）を参照

## 3. 回収結果

### (1) 発送数

5,000人

### (2) 有効回収数

1,845人・・・回収数の詳細については、本編：調査の結果「1. 回答者の属性」を参照

### (3) 有効回収率

36.9%

## 4. 注意事項

- (1) 調査結果の数値は、原則としてパーセンテージ(%)で表記した。%値の母数は、原則としてその質問に対する回答者数(回答すべき人の数)であり、図表では、「n」と表示している。図表に「n」の表示がない場合は、本調査の有効回収数 1,845=nである。
- (2) 本報告書では、マイナス記号に「▲」を使用している。
- (3) 回答の比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。またスコア化した数値では、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点第2位までを表示している。したがって、比率の合計は必ずしも 100.0%ではない場合(99.9%または 100.1%など)がある。また「0.0」は±0.05 未満の数値を示し、小数点2桁以下の数値によってマイナス記号がつき、「▲0.0」と表記される場合がある。
- (4) 図表中の選択肢の内容について、一部省略している場合がある。また、図の一部において、構成比の少ない項目の構成比の値を省略している。
- (5) 本調査のように全体(母集団)から一部を抽出して行う調査の場合、ここで示された数値(%)をそのまま 20 歳以上の全市民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差を生じる(標本誤差)。そこで、次式により標本誤差を計算して、20 歳以上の全市民の回答を推測する。  
 なお、標本誤差(b)は、比率算出の基数(n)及び回答比率(P)によって異なってくる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数 (167,948)

n = 比率算出の基数 (1,845)

P = 回答比率

※母集団とは、20歳以上の市内在住者の総数を表す。

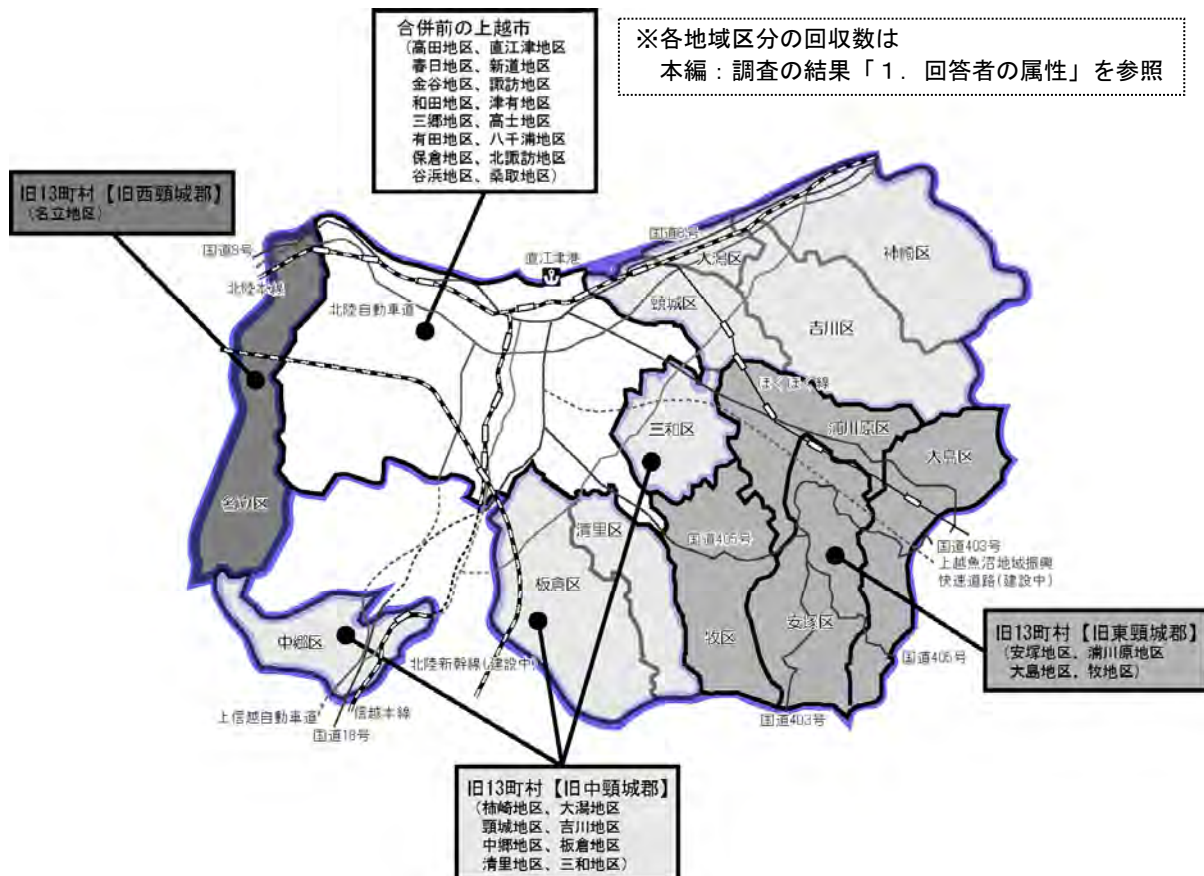
(平成12年国勢調査、旧14市町村の合計)

標本誤差の計算結果が下表であり、「全体の回答者数が 1,845 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 50%であった場合、その回答比率には±2.3% (最大で 2.3%) 程度の誤差がありうる」ことを示す。つまり、実際の比率は (50.0-2.3)% から (50.0+2.3)% の間にあると考えればほとんど問題ないということである。

回答の比率	標本誤差
10%または 90%	±1.4
20%または 80%	±1.9
30%または 70%	±2.1
40%または 60%	±2.3
50%	±2.3

(6) 分析に際して、回答者の居住地に関して、回答内容を集約して行ったものがある。回答者はまず大きく「合併前の上越市」と「旧13町村」に、「旧13町村」はさらに「旧東頸城郡」、「旧中頸城郡」、「旧西頸城郡」に集約して比較している。これらの地域名称・区分は、合併による影響や地域別のニーズを明らかにするため、生活スタイルや地域性をもとに、旧郡を単位とした。ただし、「旧西頸城郡」については、回収数が少なく標本誤差が大きいため、統計数値としての信頼度は低く、参考値として掲載している。集約した内容は、以下のとおりである。

【回答項目】 お住まいの地区：属性項目（4）		【集約項目】 地域区分			
高田地区	直江津地区	⇒ 合併前の上越市			
春日地区	新道地区				
金谷地区	諏訪地区				
和田地区	津有地区				
三郷地区	高土地区				
有田地区	八千浦地区				
保倉地区	北諏訪地区				
谷浜地区	桑取地区				
安塚地区	浦川原地区			⇒ 旧13町村	⇒ 旧東頸城郡
大島地区	牧地区			⇒ 旧13町村	⇒ 旧中頸城郡
柿崎地区	大潟地区			⇒ 旧13町村	⇒ 旧西頸城郡
頸城地区	吉川地区				
中郷地区	板倉地区				
清里地区	三和地区				
名立地区					



(7) 調査票では、上越市が現在行っている主な取組を6分野、60項目取り上げた。この報告書では、これらの調査項目を次のように省略している場合がある。

(分野名)	(調査票に表記した調査項目)		(省略項目名)
生活環境	(1)	火災、水害、地震などへの防災対策	⇒ 防災対策
	(2)	防犯灯の設置など、防犯対策	⇒ 防犯対策
	(3)	交通安全対策	⇒ 交通安全対策
	(4)	大気や水質・騒音などの公害対策	⇒ 公害対策
	(5)	二酸化炭素の発生抑制など、地球温暖化対策	⇒ 地球温暖化対策
	(6)	産業廃棄物の処理対策	⇒ 産廃の処理対策
	(7)	太陽光発電や風力発電など、新エネルギーの利用	⇒ 新エネルギー
	(8)	自然保護、環境保全をすすめる啓発活動	⇒ 環境啓発活動
	(9)	ごみの減量化とリサイクルの推進	⇒ ごみ減量とリサイクル
健康福祉	(10)	地域福祉を支えてくださる市民のボランティア活動への支援	⇒ 福祉ボランティア
	(11)	障害者、高齢者などが安全・安心に生活できるバリアフリーの環境づくり	⇒ バリアフリー
	(12)	障害者の自立・社会参加の支援と施設整備	⇒ 障害者の自立・社会参加
	(13)	高齢者の介護のための在宅福祉制度と施設整備	⇒ 高齢者介護の在宅福祉
	(14)	高齢者のレクリエーションなど、生きがい支援	⇒ 高齢者の生きがい支援
	(15)	育児相談など、子育て支援と少子化対策	⇒ 子育て支援と少子化対策
	(16)	保育園の時間延長など、保育サービスの充実	⇒ 保育サービスの充実
	(17)	妊娠、出産後の支援など、母子保健活動の推進	⇒ 母子保健活動の推進
	(18)	健康意識の向上と健康づくり活動の推進	⇒ 健康づくり
産業経済	(19)	救急、休日、夜間の医療体制の充実	⇒ 医療体制の充実
	(20)	平場地域の農業の振興	⇒ 平場地域の農業振興
	(21)	中山間部の農業の振興	⇒ 中山間部の農業振興
	(22)	ほ場や農道など農村地域の基盤整備	⇒ 農村地域の基盤整備
	(23)	森林整備と林業の活性化	⇒ 森林整備と林業活性化
	(24)	水産業の振興	⇒ 水産業の振興
	(25)	中小企業の経営基盤強化と、人材育成の支援	⇒ 中小企業支援
	(26)	既存商店街の基盤整備や魅力づくりなど、商業の振興	⇒ 商業の振興
	(27)	地場産業の育成と技術開発支援など、工業の振興	⇒ 工業の振興
	(28)	企業団地の整備や支援制度の充実などによる企業誘致の促進	⇒ 企業誘致の促進
	(29)	観光拠点の整備と地域連携による観光の振興	⇒ 観光の振興
	(30)	新しい産業の創出のための研究開発と創業・起業の支援	⇒ 新産業の創出
	(31)	働く場の拡大と職業能力開発など、就業支援	⇒ 就業支援
	(32)	農山村での宿泊体験事業など、地域資源を活用した「地域おこし」の推進	⇒ 「地域おこし」の推進



教育文化	(33)	幼稚園、小・中学校の施設や通学路の点検と整備	⇒	学校施設の整備
	(34)	少人数学級の実現など、小・中学校教育の充実	⇒	小・中学校教育の充実
	(35)	高等教育機関（大学、短大、専門学校）の誘致・新設	⇒	高等教育機関の誘致・新設
	(36)	趣味、教養を高める生涯学習の推進と施設整備	⇒	生涯学習の推進
	(37)	青少年の健全育成のための体制充実	⇒	青少年の健全育成
	(38)	歴史的遺産の保護と活用	⇒	歴史的遺産の保護と活用
	(39)	芸術、文化活動の推進	⇒	芸術、文化活動の推進
	(40)	国際的な文化交流の推進	⇒	国際的な文化交流の推進
	(41)	スポーツ、レクリエーションの振興と施設整備	⇒	スポーツ・レクの振興
都市整備・生活基盤整備	(42)	身近な生活道路の整備	⇒	身近な生活道路の整備
	(43)	主要幹線道路の整備	⇒	主要幹線道路の整備
	(44)	鉄道やバスなどの利便性の向上	⇒	公共交通利便性の向上
	(45)	雪対策	⇒	雪対策
	(46)	災害に強い河川、海岸線の整備	⇒	災害に強い河川、海岸線
	(47)	安全な水道水の安定供給	⇒	安全な水道水の安定供給
	(48)	下水道の整備など、生活排水の処理対策	⇒	生活排水の処理対策
	(49)	区画整理事業などによる優良な市街地の形成	⇒	優良な市街地の形成
	(50)	公営住宅整備や持ち家支援など、ゆとりある居住空間の確保	⇒	ゆとりある居住空間の確保
	(51)	新幹線の整備促進と新駅の周辺整備	⇒	新幹線の整備促進
	(52)	直江津港の整備と利用促進	⇒	直江津港の整備と利用促進
	(53)	市民の憩いの場としての公園・緑地の整備	⇒	公園・緑地の整備
	(54)	美しい街並みや景観の形成	⇒	美しい街並みや景観の形成
(55)	インターネットやケーブルテレビなど、情報通信基盤の整備	⇒	情報通信基盤の整備	
行財政・市民参加	(56)	行政改革による効率的・効果的な市政運営	⇒	効率的・効果的な市政運営
	(57)	財源確保や適正な支出による健全な財政運営	⇒	健全な財政運営
	(58)	男女共同参画社会の実現	⇒	男女共同参画社会の実現
	(59)	各種委員会への公募市民の登用やパブリックコメント（市民意見提出制度）など、市民参画のまちづくり	⇒	市民参画のまちづくり
	(60)	まちづくり団体など、地域コミュニティ活動への支援	⇒	地域コミュニティ活動支援

(8) この報告書では、「平成14年度住民満足度調査」の結果との比較を通して、市民の意識や行政需要の変化を分析している。今回の調査では、前回調査と比較して、新たな視点を盛り込み、調査項目を変更したため、比較可能な項目についてのみ分析を行っている。その際、標本を合わせるため、数値等の比較は、前回調査の対象である「合併前の上越市」のみをその対象とした。

なお、前回調査の概要は以下のとおりである。

◆ 平成14年度住民満足度調査の概要

- 1) 調査地域・・・合併前の上越市内全域
- 2) 調査対象・・・合併前の上越市内に在住する満20歳以上の男女2,000人
- 3) 抽出方法・・・無作為抽出
- 4) 調査方法・・・郵送配布・郵送回収
- 5) 調査期間・・・発送：平成14年4月12日  
回収：平成14年4月14日～5月10日
- 6) 回収数・・・899人
- 7) 回収率・・・42.7%

◆ 平成14年度住民満足度調査との結果比較を行った設問一覧

今回調査	平成14年度調査
問1 地域への愛着	問1
問2 生活の暮らしやすさ	
問3 以前の生活の暮らしやすさ	
問4 今後の生活の暮らしやすさへの期待	
問5 暮らしやすさを感じる点	問3
問6 不便や不満を感じる点	問4
問7 生活実態・生活実感に関する設問（計9つ）	
問8 現在の上越市の取組に対する満足度と今後の重要度	問7
問9 市民活動等への参加	問12①
問10 今後の参加について	
問11 地域活動への参加	問12②
問12 今後参加したいと思う活動	
問13 今後の行政サービスの実施、公共施設の管理について	
問14 市政に対する市民の声の反映	
問15 各地域における土地の利用（3地区）	
問16 都市の魅力を高める整備	
問17 今後転居したい地域	
問18 将来のまちの姿のイメージ	問6